

地域創造レター

6月号—No.254 2016.5.25 (每月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew



ドラブとは、「冴えない」「くすんだ」「活気がない」という意味。オリーブドラブは通称OD色と呼ばれ、軍用車両や軍用機の標準色として知られている。迷彩塗装は、この色とダークグリーン、茶、黒を組み合わせたもの。

•	H	火/	contents

- H.J. /

今月のニュース 2

平成28年度「公共ホール音楽活性化事業」全体研修会報告

「地域創造フェスティバル2016」開催のお知らせ「市町村長特別セミナー」報告

平成28年度「リージョナルシアター事業」研修会報告 地域創造レター年間購読のご案内

地域通信/アーツセンター情報

石川県小松市 第18回全国子供歌舞伎フェスティバルin小松

発行元:一般財団法人地域創造 〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル 9F Tel. 03-5573-4066 Fax. 03-5573-4060 URL: http://www.jafra.or.jp/

●平成28年度「公共ホール音楽活性化事業 |全体研修会

新規登録アーティストが個性溢れるプレゼンを披露

^{平成28年度} 公共ホール 音楽活性化事業 全体研修会

2016年4月18日~20日



写真

左上:平成28・29年度公共ホール音楽活性化事業登録アーティストによるプレゼンテーション。喜名雅さん

右上:ヴィタリ・ユシュマノフさん 左下:セレノグラフィカによるダンスワーク ショップ

右下:グループ別企画検討の成果発表

- ●平成28・29年度公共ホール音楽活性 化事業登録アーティスト
- 岩崎洵奈(ピアノ)
- ●坂口昌優 (ヴァイオリン)
- ●加藤文枝(チェロ)
- ●福川伸陽(ホルン)
- ●喜名雅 (テューバ)
- ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン)
- ●塚越慎子(マリンバ)

●公共ホール音楽活性化事業に関する 問い合わせ 芸術環境部 阿比留・水上 Tel. 03-5573-4069 onkatsu@jafra.or.jp 平成28年度公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)の参加団体やコーディネーター、登録アーティストが一堂に会する全体研修会が、4月18日から20日まで地域創造会議室とHAKUJUホールを会場にして開催されました。今回の研修会では、今年度から2カ年にわたって活動する新規登録アーティスト(平成28・29年度)7名による公開プレゼンテーションに加え、今年度の事業に参加する担当者を対象にしたワークショップやレクチャーが行われました。

●担当者の熱意が伝わる事例

研修では、担当者同士の交流を図ることを目的に、公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)支援登録アーティストのセレノグラフィカ(隅地茉歩さん、阿比留修一さん)によるワークショップが行われました。その後、おんかつについての基礎や、事業に参加したことのある担当者とアーティストから実際の現場について学ぶ講義が行われました。

平成26年度に参加した太宰府市の事例では、事業を担当した文化学習課の北郷寛樹さんと派遣された登録アーティストの森岡有裕子さん(フルート)から取り組みを学びました。

「太宰府には市直営の中央公民館(602席のホール)しかなく、貸館事業だけでした。しかし、平成26年度に機構が変わり、自主事業に取り組むことになったのですが、どうしていいかわからなかった。コーディネーターに一から事業運営を学びたいと思い、おんかつに応募しました」と北郷さん。初めてのチラシ・パンフレットづくりやチケット販売、照明や映像を生かしたコンサートに挑戦。丁寧な根回しに加え、ビデオレターなどを活用し、「どこに行っても地域の人がアーティストのことを知っている状況」をつくり出し、おんかつを成功に導きました。

森岡さんは、「曲目だけでコンサートやアウトリーチの内容が決まると思われるかもしれませんが、土地のことや子どもたちの様子でやり方を決めることも多い。太宰府ではホールに入ってからこうしたいというイメージがはっきりし、真っ暗なところから始めて徐々に照明を明るくし、最後はアクティビティの様子を映し出しながら演奏しました」と話していました。

このほか、「アウトリーチが子どもたちのためになること、アウトリーチで心と耳を解してからコンサートを聴くと音楽の聞こえ方が違うことを先生に体験してほしい」という担当者の熱い

思いを実現した福井市や、音楽を聴きながら絵 を画くワークを行った亀山市の事例なども紹介 されました。

●個性溢れるプレゼンテーション

2日目に行われた平成28・29年度登録アーティストによる公開プレゼンテーションは、初年度にもかかわらず、それぞれの演奏家の人間性が全面に出た堂々としたプレゼンテーションが揃い、聴衆を魅了していました。

自宅には1,000本以上のマレットがあるという 塚越慎子さん(マリンバ)は、マレットによって無 限に広がるマリンバの音づくりの秘密を伝える とともに力強い演奏を披露。また、「ホームセン ターは音楽家にとって音楽の宝庫。まな板、釘 など身近な素材を使って音楽をつくり上げられ ることも打楽器の魅力|とアピールしていました。

子どもたちにプロとして仕事をしている姿を 見せたいため必ずドレスで演奏するという岩 崎洵奈さん(ピアノ)は、自らの編曲によるプロ グラムで勝負。坂口昌優さん(ヴァイオリン)は、 将軍の凱旋風、女の子のウキウキ・デート風で 弾き比べ、「言葉を介さずに思いやイメージを 伝えられるのが音楽 | と話していました。

舞台に上げた聴衆に囲まれながら演奏した 喜名雅さんは、「今日は、テューバが旋律も吹け ることを知ってもらえれば」と沖縄出身らしい 大らかなパフォーマンスで楽器の魅力をアピー ル。おっとりした口調で聴衆のイマジネーション について話した加藤文枝さん(チェロ)は、「主 役はあなたです」と客席の心を掴んでいまし た。また、客席から登場した福川伸陽さん(ホ ルン)は、楽器のルーツについての知識で客席 の好奇心をくすぐっていました。

なかでも異色だったのは、サンクトペテルブルク出身、ドイツのライプツィヒで音楽を学び、現在国分寺市在住のヴィタリ・ユシュマノフさん(バリトン)です。6カ国語を話す国際派で、ロシア民謡の『ふるさと』など5曲を披露し、誠実な人柄と"声"の力で会場を魅了していました。

●平成28年度「公共ホール音楽活性化事業」全体研修会スケジュール

	4月18日(月) 地域創造 会議室	4月19日(火) HAKUJUホール	4月20日(水) 地域創造 会議室
10:00		「おんかつから始まるホールと地域の未来」 吉本光宏(ニッセイ基礎研究所研究理事)	「フィードバックとグループ別企画検討」 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子
11:00			
12:00		「フィードバック~これまでのゼミを振り返	
13:00	オリエンテーション 「ワークショップ」 セレノグラフィカ(隅地茉歩+阿比留修一)	・って〜」 「プレゼンテーションの聴き方」 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子	「企画発表」 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子
14:00			
15:00	「おんかつを知るVol.1~基礎編~」小澤櫻作	平成28·29年度登録アーティスト 公開プレゼンテーション •塚越慎子(マリンバ)	閉講式
16:00	「おんかつを知るVol.2~実務編~」地域創造	●岩崎洵奈(ピアノ)●坂口昌優(ヴァイオリン)●喜名雅(テューバ)	
17:00	「おんかつを知るVol.3~事例紹介編~」 I. H26太宰府市の事例(北郷寛樹、森岡 有裕子、小澤櫻作) Ⅱ. 演奏家の事例(新居由佳梨、丹羽徹、	・加藤文枝(チェロ)・福川伸陽(ホルン)・ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン)	
18:00	花田和加子) Ⅲ.事業担当者の役割とは(柿塚拓真)		
19:00		交流会(~21:00)	

- ●平成28年度「公共ホール音楽活性化 事業」参加団体一覧(全17団体)
- •青森県平川市(平川市文化センター)
- •茨城県日立市(日立シビックセンター)
- •埼玉県吉川市(吉川市中央公民館)
- ●埼玉県美里町(美里町遺跡の森館)
- •埼玉県宮代町(宮代町立コミュニティセンター進修館)
- ●千葉県鎌ヶ谷市(きらりホール)
- •東京都文京区(文京シビックホール)
- •富山県滑川市(滑川西地区コミュニティホール)
- ・山梨県韮崎市(東京エレクトロン韮崎 文化ホール)
- •長野県須坂市(須坂市文化会館)
- •岐阜県関市(関市文化会館)
- •京都府城陽市(文化パルク城陽)
- •奈良県王寺町(王寺町文化福祉セン ター)
- •和歌山県上富田町(上富田文化会館)
- •島根県安来市(広瀬中央交流センター)
- ●徳島県小松島市(小松島市ミリカホール)
- •大分県九重町(九重文化センター)

財団からのお知らせ

●「地域創造フェスティバル 2016」開催の お知らせ

地域創造が取り組んでいるさまざまな事業を紹介するとともに、公共ホールや自治体が事業を企画・実施する上で参考になる情報を提供することを目的として、「地域創造フェスティバル2016」を8月2日(火)~4日(木)の3日間、東京芸術劇場(豊島区西池袋1-8-1)で開催します。予定しているプログラムは、以下のとおりです。

- ◎地域創造の調査研究事業の成果等に関するシンポジウム
- ◎公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ 支援)のプレゼンテーション・セミナー
- ◎公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)

のプレゼンテーション・セミナー

- ◎平成29年度「地域の文化・芸術活動助成事業」および「地域伝統芸能等保存事業」の助成要綱に関する説明
- ◎都道府県·政令指定都市文化行政担当課 長会議

公共ホールや自治体の職員の皆様が今後の 事業を計画していく上で非常に有益なプログラム内容となっています。また、アーティストや 他の地域の公共ホール等とのネットワークづくりや情報交換の場としてもご活用いただける 絶好の機会です。

プログラムの詳細と参加者募集は、次号(7月号)でご案内します。多くの皆様のご来場を 心よりお待ちしています。

●「市町村長特別セミナー」報告~全国の市町村長等78名が参加

毎年全国の市町村長等を対象に、文化・芸術による地域づくりへの理解を深めていただくために開催している「市町村長特別セミナー」が、4月21日に千葉市の市町村アカデミーにおいて開催されました。

今回の講師を務めたのは作曲家で地域創造理事でもある中村透さんです。中村さんは沖縄県佐敷町(現・南城市)とともに南城市文化センターシュガーホールを立ち上げた経験をもち、琉球大学教授を経て、現在は同ホールの芸術監督として活躍されています。今回は「身の協働が拓く芸術行動の輪〜地域の公共ホールへの展望」をテーマに、現代社会が見失ってしまった"身"の感覚の重要性やシュガーホールでの取り組みについて講義されました。

「私たち日本人には"身"という独特な感覚があります。身に沁みる、身が入る、身を焦がす、身をもって知るなど。文化人類学者の野村雅一が、現代社会では"身の協働"が希薄になったと指摘していますが、かつてあった祭りなどの身の協働が都市社会では希薄になっている。東日本大震災で地域に伝わる伝統芸能が人々を元気にしたという報せをたくさん読みましたが、それは日本人が伝えてきたりの感覚と無縁ではないと思います。ヒトはなぜ歌い、踊り、演じるのか――それは生産というは、身の協働そのものを目的とした遊び(想像と創造)で連帯することによって、共に生きる、共に祈るという心情と深く共鳴する必要があるからではないでしょうか。それが身体表現芸術(Performing

Arts) あるいは身を通した社会行動の類似体験の存在意義なのだと思います」と中村さん。そうした問題意識を踏まえ、シュガーホールがコミュニティ再生型事業の一環として創作した新作オペラ『あちゃーあきぬ島』について紹介されました。「こうしたオペラのような"小さな共同体の身体協働"から"大きな共同体の異文化協働"へと展開し、引いては"世界の多様な文化への共感・参加"に繋げていければと思っています。僕はこれを記憶のエコロジーと呼んでいますが、これを地域に保証する場として公共ホールがあるのではないでしょうか」と力強くアピールされていました。

また、地域創造の事業を紹介する一環として、おんかつ支援登録アーティストの福島青衣子さん (ハープ)と森岡有裕子さん (フルート)によるミニコンサートが行われました。フルートやハープの楽器紹介を交え、『小舟にて』(ドビュッシー)、『精霊の踊り』(グルック)など8曲を披露。印象派の絵画のような光溢れる演奏で、癒やされるひとときとなりました。



福島青衣子さん(左)と森岡有裕子さん(右)によるミニコンサート

●地域創造フェスティバルに関する問い 合わせ 芸術環境部 江坂・工藤

Tel. 03-5573-4073

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●平成28年度「リージョナルシアター事業」研修会報告

平成28年度リージョナルシアター事業の参加団体と派遣アーティストが集まりワークショップや打ち合わせを行う研修会が、4月21日(木)、22日(金)の2日間にわたって当財団事務所にて開催されました。今回は今年度参加する6団体(静岡県川根本町、愛知県春日井市、兵庫県尼崎市、福岡県大野城市、熊本県長洲町、熊本市)のうち5団体から9人の事業担当者が参加し、交流を深めるとともに当事業の趣旨や可能性を共有する2日間となりました(※震災の影響で熊本市健軍文化ホールは参加を辞退されました)。

参加団体のニーズに応じて演劇の手法を使った学校へのアウトリーチやワークショップを行う当事業では、事前に地域の課題や展望などを派遣アーティストと参加団体が共有していくことはとても重要です。また実際に派遣アーティストによるワークショップを体験することによって、当事業への理解をより深めることができます。

初日は、今年度から新規に派遣アーティストとなった有門正太郎さん、ごまのはえさん、福田修志さんによるワークショップが行われました。日常的な風景の中にある不思議な形を発見してタイトルをつける(有門)、楽器を使った音づくりによって与えられたテーマを表現する(ごま)、バラバラの写真を組み合わせて物語をつくる(福田)など、三者三様に"想像すること""コミュニケーション"に焦点を当てたワークショップが展開されました。

ワークショップ後の振り返りの時間では、アドバイザーの岩崎正裕さん(劇作家・演出家、劇団太陽族主宰)から演劇ワークショップの効果について「コミュニケーション力や想像力を身に付けることが他者理解に繋がる」といった点が指摘されました。これを受けて、演劇事業としてだけではなく、学校教育をはじめとしたさまざまな分野と連携できる当事業の可能性について、活発な意見が交わされました。

2日目は前日の議論を踏まえて、参加団体による参加動機や事業実施後の展望についての発表

が行われました。ながす未来館(長洲町)の吉川 紗知恵さんからは「お年寄りや子どもたちをはじ め地域の人たちが繋がる場をつくっていきたい」 と強い意欲が語られました。その後、派遣アー ティストと参加団体が個別の打ち合わせを行い、 2日間の研修会を締めくくりました。







ワークショップの様子。上から有門正太郎さん、ごまのはえさん (写真左端)、福田修志さん(写真右端)

●地域創造レター年間購読のご案内

毎月25日に、地域創造と各地域の公立文化施設、制作者等の文化・芸術関係者とを繋ぐ基本的な媒体として、各地域のユニークな公演・展示の情報や参考となる各地の取り組み事例、地域創造の事業のお知らせ等を掲載した本誌「地域創造レター」を発行しております。年間購読をご希望される方は、当財団ウェブサイトの「出版物・報告書」より購読申込書にご記入の

上、ファックスでお申し込みください。 http://www.jafra.or.jp/j/library/information.php なお掲載内容はウェブサイト上にすべて掲載してい ます(翌月1日ごろ更新)。

「問い合わせ」芸術環境部 発行物申込み係 Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093 ●リージョナルシアター事業に関する問い合わせ 芸術環境部 戸舘 Tel. 03-5573-4124

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。 ■マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道·東北]北海道、青森、岩手、宮城、 秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸·中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈

良、和歌山 [中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山

口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州·沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。 Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066 letter@jafra.or.jp

地域創造情報担当 宇野・小川

●2016年8月号情報締切 7月1日(金)

●2016年8月号掲載対象情報 2015年8月~10月に開催もしくは募集 されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

- ◎公共ホール等の求人情報
- ○公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトを ご覧ください。 http://www.jafra.or.jp/

北海道・東北

●札幌市

1条西17丁目

北海道立近代美術館 〒060-0001 札幌市中央区北

Tel. 011-644-6882 **國部容子** http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg. in/hk/knh/

北海道・いまを生きるアーティ ストたち ともにいること とも にあること

北海道を拠点に活動する、若 手を中心とした9名の美術家に よる展覧会。表現手法はさまざ まながら、彼らの作品に共通し て浮かび上がるのは「共生」と いうキーワード。他者への共感 に基づいてそっと寄り添おうと する作品や、個人的な視覚体験 を元に普遍的イメージを創出す る作品、時間と空間の共有体 験を生む作品などを展示する。 [日程]5月25日~6月23日 [会場]北海道立近代美術館



-経塚真代《私は誰 あなたも誰》(2016年/ 作家蔵)

●札幌市

住民参加温故知新音楽劇第10 回記念公演実行委員会

〒063-0841 札幌市西区八軒 1条西1丁目(NPO法人コンカリー ニョ内)

Tel. 011-615-4859 斎藤ちず http://www.concarino.or.jp/

『マスト・ゴゥ・オン―コンカリー ニョ誕生秘話』

NPO法人コンカリーニョが中心 となって実施している地域密着 型創作劇事業「温故知新音楽 劇」の第10回記念公演。地域の エピソードを元に制作・上演を 続け、今年は10周年を迎える 生活支援型文化施設コンカリーニョそのものを題材とする。出 演者や制作スタッフとして幅広 い年代の住民が集まる交流の 場となるとともに、気軽に演劇 に親しむ機会を提供する。

[日程]6月25日、26日 [会場]生活支援型文化施設コ ンカリーニョ



前回の音楽劇『琴似☆八軒 70'sグラフィ

●北海道滝川市

NPO法人アートステージ空知 〒073-0031 滝川市栄町3-5-3 Tel. 0125-23-6330 小林ひろみ http://sorachionkan.blog69.fc2.com/

20周年記念公演 たきかわ車人形ひろみ座

江戸時代から150年にわたり歴 史的文化的価値のある「車人 形」を、北海道の風土にあった 新しい文化として復元させ、北 海道の歴史・自然・人物たちに 焦点を当て、観衆に「生きる力 を贈る」を座のテーマと掲げるた きかわ車人形ひろみ座。地元空 知管内を中心として全道各地で 車人形舞台公演を行う同団体 は、人形製作から語り部、三味 線、舞台づくりまで会社員や主 婦、公務員らのメンバーが分担 して演じる。本公演はひろみ座 20周年にあたり、『霜夜狸』 『こ の地に生きて~たきかわ開拓物 語~』の2部構成で上演する。 [日程]6月18日

[日怪] 6月18日 [会場] たきかわホール

●青森県青森市

棟方志功展実行委員会 〒038-0021 青森市安田字近 野185 (青森県立美術館内) Tel. 017-783-3000 池田亨 http://www.aomori-museum.jp

青森県立美術館開館10周年記念 「オドロイテモ、おどろききれない森羅万象:棟方志功とその時代」展

青森市に生まれた板画家・棟 方志功(1903~75)が、いかに して「世界のムナカタ」となった かを丹念にたどりながら、現 代における意義を提示する展 覧会。代表作を網羅するととも に、彼が吸収し影響を受けた 同時代の芸術家の作品や、版 画部門のグランプリを受賞した 1956年のヴェネツィア・ビエン ナーレの再現展示など、これま でにない切り口で志功の全貌 に迫る。

[日程]4月16日~6月5日 [会場]青森県立美術館

●仙台市

とっておきの音楽祭実行委員会 SENDAI

〒980-0014 仙台市青葉区本 町2-9-3 6F

Tel. 022-265-0980 菊地新生 http://totteokino-ongakusai.jp/

とっておきの音楽祭2016

障がいのある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、音楽のチカラで「心のバリアフリー」を目指す音楽祭。2001年の第1回以来、演奏・歌・ダンスなどさまざまな"チカラ"を表現できるステージを提供し続けている。仙台市内中心部の公園や商店街などが会場となり、県内外から340グループが参加の予定。

[日程] 6月5日 [会場] 仙台市市民広場ほか

●山形県米沢市

米沢市上杉博物館 〒992-0026 米沢市丸の内1-

Tel. 0238-26-8001 花田美穂

▼-- 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

http://www.denkoku-no-mori.yone zawa.yamagata.jp/uesugi.htm

開館15周年記念企画展 「生誕120年 椿貞雄展―椿貞 雄と岸田劉生―」

米沢市出身の洋画家・椿貞雄 の生誕120年を記念する展覧 会。生涯の師であり同志であっ た岸田劉生との出会いから、草 土社の創立、家族ぐるみの付き 合いや白樺との関係、椿にとっ が続けた「日本人の油絵」を 椿が成就していく過程をたぐ る。椿と劉生の草土社社の 作品や劉生からの手紙、椿の 日記など約200点を展示する。 [日程]前期:6月25日~7月18 日/後期:7月23日~8月21日 [会場]米沢市上杉博物館

関東

●東京都新宿区

クリエイティブアート実行委員会 〒107-0052 港区赤坂6-2-5-201(ミューズ・カンパニー内) Tel. 03-6426-5182 伊地知裕子 http://www.musekk.co.jp/

ファシリテーション ワークショップ

障がいのある人たちにもダンスをより身近に感じてもらうため、またどのように身体性や特長を活かしたダンスワークショップのリードができるか、方法や考え方をIsabel Jonesら国内外のアーティストたちから学ぶ。約4カ月間かけて開催され、各アーティストによるダンスワークショップが行われた後に講義を行う。

[日程] 5月3日〜9月(予定) [会場]戸山サンライズほか都内 各所

●東京都台東区

東京藝術大学大学美術館 〒110-8714 台東区上野公園 12-8 Tel. 050-5525-2435 丸山依子 http://www.geidai.ac.jp/museum/

いま、被災地から一岩手・宮城・ 福島の美術と震災復興一

東日本大震災から5年が経ったことを節目に企画された展覧、会。第1部では、岩手、宮レクションを中心とした約70点により、東北の美術の魅力を網館、存出を選が、被災した美術館、博物館の所蔵作品を展示するとともに、作品救出や応急をといる。現状や今後の復興への課題と取り組みについて理解を深める機会とする。

[日程] 5月17日~6月26日 [会場]東京藝術大学大学美術館



富岡町文化交流センターでのレスキュー作業(2013年5月28日撮影)

●東京都調布市

調布市文化・コミュニティ振興財団 〒182-0026 調布市小島町2-33-1 (調布市文化会館たづくり内) Tel. 042-441-6171 土井尚治 http://chofumusicfestival.com/

調布音楽祭2016

プロデューサーに音楽家の鈴木優人を迎え、今年4回目の開催となる音楽祭。今回は音楽祭のため特別に編成されるフェスティバル・オーケストラ(通称フェスオケ)が誕生。鈴木雅明、下野竜也の指揮で若手音楽家が演奏する。1783年ウィーン・ブルク劇場公演をオリジナル楽器を用いて当時の空気まで蘇らせる「生誕260年 モーツァルト・ガラ・コンサート」など多彩なプログラムが用意されている。 [日程]6月22日~26日

Topics

●「よみがえるオオカミ―飯舘村山津見神社・ 復元天井絵 | 展

東日本大震災後、2013年の火災で焼失した飯舘村山津見神社のオオカミを描いた天井絵を復元する作業が東京藝術大学保存修復日本画研究室を中心に行われ、今年3月に完成。5月から福島県立美術館で公開され、併せてオオカミ信仰に関わる絵馬などの資料、同研究室の活動を通じて最新の文化財保存技術なども紹介されます。

天井絵は拝殿の焼失前に和歌山大学の加藤久美教授、サイモン・ワーン特任助教授らが細部を撮影していたため、その写真を元に242枚の天井絵復元が始まりました。プロジェクトには飯舘村の復興を支援するNPO法人「ふくしま再生の会」も、地域住民との連絡や情報発信など多方面にわたって協力しています。

「古来から馬産の盛んな飯舘村では、オオカミから馬を守るため、山の神の使いとして祀られるようになり、明治末に地元の画家・伏見東洲とその一派が天井絵を描きました。今回、多くの人たちの尽力によって天井絵が完成し、文化財とは何かを一緒に考える機会となりました。地域の歴史や文化を引き継いでいく、貴重な文化財になると思います」と担当の増渕鏡子さん。

飯舘村は現在も避難指示解除準備区域・居住制限区域・帰還 困難区域であるため、村民の多くは福島市で避難生活を送ってお り、観賞機会を設けるため市内の県立美術館で展示することに。 天井絵は展示後に神社に設置予定で、このプロジェクトを機に、 飯舘村の現状や地域の民俗・文化を紹介し、また天井絵を飯舘 村の新たな文化・観光資源として広く発信していく予定です。

●福島県福島市 [日程]5月28日~7月3日 [会場・問い合わせ]福島県立美 術館

Tel. 024-531-5511 http://www.art-museum.fks.ed.ip

> 復元作業の様子 (撮影:林道子)



[会場]調布市グリーンホール、調布市文化会館たづくりほか

●東京都三鷹市

三鷹市スポーツと文化財団 〒181-0012 三鷹市上連雀6-12-14

Tel. 0422-47-5122 森元·森川 http://mitaka.jpn.org/

MCR+三鷹市芸術文化センター presents 太宰治作品をモチーフにした演劇 第13回 『逆光、影見えず』 三鷹市芸術文化センターでは 三鷹ゆかりの太宰治を偲び、 平成16年から太宰作品をモ チーフにしながらそのエッセン スに溢れたオリジナル作品など を上演してきた。13回目となる 今回は、劇団MCRを主宰する 櫻井智也が太宰の初期の短編 『逆行』をベースに、太宰治の 世界を描く。

[日程]6月24日~7月3日 [会場]三鷹市芸術文化センター 星のホール

●横浜市

横浜能楽堂(横浜市芸術文化振 興財団)

〒220-0044 横浜市西区紅葉 ヶ丘27-2

Tel. 045-263-3055 石川泰菜 http://www.ynt.yaf.or.jp

開館20周年記念 横浜能楽堂 企画公演「伝説の能面・狂言面」

開館20周年を記念し、伝説的 な能面・狂言面を使用した公家が をシリーズで上演する。各点点を をシリーズで上演する。 を主島が名曲を演じた 当主らが名曲を演じ本 当まらが名曲を 当まらが名曲を が、当主らが名曲を が、当主らが名曲を が、当主らが名曲を が、当まらが名曲を は 「本につくられた写してある が、で見ることができる。 宝・山 本東次郎が横浜風流』が初演 される。

[日程]6月11日、7月17日、8月 21日、9月24日





節木増(増阿弥作·宝生会蔵)

北陸・中部

●新潟市

新潟市芸術文化振興財団 〒951-8132 新潟市中央区一 番堀通町3-2

Tel. 025-224-7000 山本幸重 http://www.ryutopia.or.jp/

Noism 劇的舞踊 vol.3 『ラ・バヤデール ― 幻の国』

金森穣芸術監督率いるりゅーとびあ専属ダンスカンパニー Noismの「劇的舞踊」シリーズ第 3弾。今回は、古典バレエの名 作『ラ・バヤデール』を元に、劇作家・演出家の平田オリザが脚本を書き下ろし、現代社会の抱えている問題の根源がどこにあるのかを問う作品として描く。 [日程]6月17日~19日 [会場]りゅーとびあ 新潟市民



劇的舞踊『カルメン』再演(2016年) Photo: Kishin Shinoyama

●福井県鯖江市

芸術文化会館

吹奏楽フェスティバル in SABAE 実行委員会

〒916-8666 鯖江市西山町13-1 (鯖江市政策経営部地方創生戦略室内)

Tel. 0778-53-2263 今宮知宏 http://www.city.sabae.fukui.jp/ pageview.html?id=17811

吹奏楽フェスティバル in SABAE 2016

「吹奏楽のまち鯖江」をPRし、次世代を担う子どもたちのさらなる吹奏楽レベルの向上を図ることを目的に開催しているフェスティバル。地域住民や子どもたちが地元出身のプロアーティストとの交流を図り、吹奏楽ライヴなどを行う。またフジィアップした企画もあり、"吹奏楽のまち・鯖江"を全国に発信する。

[日程] 6月4日、12日 [会場] 鯖江市文化センター、サ ンドーム福井(4日)

●岐阜県美濃加茂市

美濃加茂市民ミュージアム 〒505-0004 美濃加茂市蜂屋 町上蜂屋3299-1

Tel. 0574-28-1110 可児·藤村

http://www.forest.minokamo.gifu.jp/

おどろきとこだわりのミュージ アムグッズ展

全国各地の博物館・美術館で開発されたオリジナルグッズを紹介する展覧会。40館から集めた約600点を、「ロングセラー」「日常に名品や学術を」「こだわりと発想」「遊びごころがいっぱいです」「子どもに大人からの、知的な願い」という5人からの、知的な願い」という5のテーマに沿って展示する。また、来館者が思い出の詰まったグッズを持ち寄り、展示するコーナーも設けている。

[日程] 4月23日~6月5日 [会場] みのかも文化の森 美濃 加茂市民ミュージアム



ネコギギマグネット(美濃加茂市民ミュ-ジアム)

●静岡市

静岡県立美術館

〒422-8002 静岡市駿河区谷 田53-2

Tel. 054-263-5857 秦井良 http://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/

開館30周年 東西の絶景

室町時代に日本に渡ってきた 技法や、伊藤若冲のように新し い表現を確立した画家から始 まり、明治から現代にかけての 日本の洋画と西洋画など、5つ のテーマで多様な表現の風景 画106点を展示。最後は、作品 秘話を記した箱が公開され、よ り深く制作背景を伝える。

[日程]前期:4月12日~5月15日/後期:5月17日~6月19日 [会場]静岡県立美術館

●愛知県岡崎市

岡崎市シビックセンター

〒444-0813 岡崎市羽根町 字貴登野15

Tel. 0564-72-5111 增田龍一 http://www.civic.okazaki.aichi.jp/

アンサンブル天下統一2016

地元出身の中木健二(チェロ) ら3名をコア・メンバーとして結成され、コロネットを拠点とし活動する岡崎初のレジデント・アンサンブル。第3回を迎える今年は愛知県出身の森山涼介(チェロ)のほか、ヴァイオリンとヴィオラ奏者の計3名がゲストとして出演。毎年異なるプログラムと編成で演奏会とアウトリーチを開催。

[日程]6月4日 「会場]岡崎市シビックセンター

●愛知県清須市

清須市はるひ美術館 〒452-0961 清須市春日夢の 森1

Tel.052-401-3881 喜田早菜江 http://www.museum-kiyosu.jp/

清須ゆかりの作家 中川幸作 写真展 命が煌めく瞬間

清須市にゆかりのある作家を紹介するシリーズ第3段。清須市在住の写真家・中川幸作(1946~)は、1975年、節談説教師・祖父江省念を撮ったことで写真家として独立。以来、職人や舞台芸術を主に撮影している。中川が大切にしているのは、眼の奥に現れる心の動きを逃さないこと。写真作品を発表して半世紀を迎える今年、代表作を通してその業績を紹介する。

[日程] 4月23日~6月14日 [会場] 清須市はるひ美術館

近畿

●滋賀県甲賀市

滋賀県立陶芸の森

〒529-1804 甲賀市信楽町勅 旨2188-7

Tel. 0748-83-0909 鈎真一 http://www.sccp.jp/

▼--今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

公募展「マイヤー×信楽大賞 伝統と革新一日本陶芸の今」

琵琶湖と五大湖という世界有数の湖を擁する滋賀県とアメリカ・ミシガン州の姉妹友好関係を契機とした日米共同企画の公募展。昨年9月から今年1月にかけてアメリカで先行開催された展覧会の凱旋展となる。陶芸の森とフレデリック・マイヤーガーデンズ&スカルプチャーパークが日本全国から作品を募集、285点の応募から日米の審査負が26点を選考した。時代を映し出しながら、多様な様相を示す現代陶芸の一断面を取り上げ、その未来像を模索する。

[日程] 3月12日~6月12日 [会場] 滋賀県立陶芸の森

●大阪府能勢町

能勢人形浄瑠璃実行委員会 〒563-0341 豊能郡能勢町宿 野30 (淨るりシアター内) Tel. 072-734-3241 乾はるな http://jyoruri.jp/

7

2016年6月能勢淨るり月間 能勢人形浄瑠璃鹿角座公演

今年で劇団旗揚げ10周年を迎える能勢人形浄瑠璃鹿角年の定期公演。地域住民や子もたちなど約60人が、桐竹勘のもたちなど約60人が、桐竹勘のもと、伝統を重んじながら当代の名人たちのがら当代の名人たちのがら当代の名人たちのがら当代の名人たちのがら当代の名人たちのがら当代の名のもと、伝統を重んじなが楽している。今回の公演では『生りのはか、能勢オリジナル演目『風神雷神』を上演。[日程]6月25日、26日[会場]淨るりシアター



能勢人形浄瑠璃鹿角座『風神雷神』

●神戸市

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇 浜海岸通1-1-1

Tel. 078-262-0901

http://www.artm.pref.hyogo.jp/

1945年±5年 激動と復興の 時代 時代を生きぬいた作品

日本近代史の中で最も激動の時代と言える1940年から50年までの11年間に焦点を当てた展覧会。約70名の作家、約200点の作品により、美術活動が厳しく統制された戦中、廃墟からの出発となった戦後、戦中と戦後との繋がりなど、多様な様相を呈した美術家の活動を振り返る。

[日程]5月21日~7月3日 [会場]兵庫県立美術館



小磯良平《斉唱》 1941年 兵庫県立美術 館蔵

●兵庫県尼崎市

兵庫県立尼崎青少年創造劇場 ピッコロシアター

〒661-0012 尼崎市南塚口町 3-17-8

Tel. 06-6426-1940 古川知可子 http://hyogo-arts.or.jp/piccolo/in dex.php

兵庫県立ピッコロ劇団 第55回公演『メトミミトヤミー 小泉セツと八雲の怪談―』

全国初の県立劇団として平成6年に創設された兵庫県立ピッコロ劇団による公演。55回目となる今回は、地元尼崎市出身の角ひろみの脚本により、小泉八雲とその妻セツから見た100年

前の松江・東京と、さらに日本 の過去の物語と現代の日本を 対比させ、彼らの見た"目に見 えないヨキモノ"を描く。 [日程]6月4日、5日、9日~12日

●兵庫県西宮市

[会場] ピッコロシアター

西宮市大谷記念美術館 〒662-0952 西宮市中浜町4-38 Tel. 0798-33-0164 内村周 http://otanimuseum.jp/home/

生誕110年 松井正展

西宮ゆかりの洋画家・松井正 (1906~93)の回顧展。広島生まれの松井は信濃橋洋画研究所などで研鑽を積み、27年に二科展で初入選。戦後は二科会でで初入選。戦後は二科会でで初入選。戦後は二科会でで移り住んだ後は二科会どでで後端を続ける一方、大学などで後進の指導にもあたり、75年大阪芸術賞、79年西宮市信館が所蔵芸術賞した。昨年日館が所蔵学した彼の作品4点と所談話を中心とした約20点により、その足跡を振り返る。

[日程]6月11日~7月31日 [会場]西宮市大谷記念美術館

●奈良県奈良市

ムジークフェストなら実行委員会 〒630-8501 奈良市登大路町 30(奈良県地域振興部文化振興 課文化振興係内)

Tel. 0742-27-8917 武藤裕貴 http://www.naraken.com/musik/

ムジークフェストなら2016

「音楽で、奈良を元気に!」という思いからスタート。毎年好評の野外コンサート「ムジーク・プラッツ in 春日野園地」に加え、5周年の今年は世界遺産の社寺である唐招提寺でジャズコンサートを開催。県内のいたるところで多彩な音楽にふれることができる。25日の有料公演には、フランス国立リヨン管弦楽団が出演。

[日程]6月11日~26日

[会場] 奈良県内各音楽ホール、 奈良公園、春日野園地ほか



昨年の「ムジーク・プラッツ」(春日野園地 野外特設ステージ)

中国・四国

●鳥取県倉吉市

アザレアのまち音楽祭事務局 〒682-0817 倉吉市住吉町77-1 (倉吉市文化活動センター内) Tel. 0858-23-6095 計羽孝之 http://kura-azalea.sakura.ne.jp/

第34回倉吉 アザレアのまち音 楽祭2016

地元在住・出身の演奏家と地元在住・出身の演奏家と地元企業などの連携のもと開催される音楽祭。今年のオープニングコンサートは韓国から開催、また、ソリストを招いた日韓ストを招いた日韓ストを招いた日韓ストの出演となる松本東(クラリネット)の公演や、ファイナル・コンサートとして地元の合唱団や小学生による合唱のほか、中原美幸(ソプラノ)のコンサートが行われる。

[日程] 5月8日~6月19日 [会場] 倉吉未来中心、倉吉交流 プラザ、倉吉博物館、市内各所 ほか

●島根県松江市

松江市総合文化センタープラバホール

〒690-0017 松江市西津田6-5-44

Tel. 0852-27-6000 長岡愼 http://www.web-sanin.co.jp/matsue/ plover/hall/

第31回松江プラバ音楽祭

開館30周年を迎える記念すべき年に、当初から途切れることなく続けてきた31回目の音楽

祭を開催。6月に2回、9~11月 各1回、合計5組の国内外で活 躍する音楽家による公演があ る。開館月を記念して6月には 昨年の「音楽の友」6月号誌上 で、好きな日本人ヴァイオリニス ト1位に選ばれた庄司紗矢香に よる無伴奏リサイタルを行う。 [日程]6月5日、26日、9月10日、 10月10日、11月5日 [会場]松江市総合文化センター プラバホール

●広島市

アステールプラザ(広島市文化財団)

〒730-0812 広島市中区加古 町4-17

Tel. 082-244-8000 金沢章子 http://h-culture.jp/

HIROSHIMA演劇祭2016

6月から8月にかけて、広島はじめ各地より集まった5団体が演劇等のパフォーマンス作品を上演するほか、地域交流プログラムをしてワークショップやシンポジウムを実施する。昨年年好劇団ンドン・バブル・シアター・カンパニーの手法を取り入ひろともコミュニティネットひろろともコミュニティネットひろとまなどによる市民参加プロジェが上演される。

[日程] 6月3日~8月7日 [会場] JMSアステールプラザ



昨年の『ヒロシマの孫たち』公演

●徳島県那賀町

拝宮谷農村舞台保存会、阿波 農村舞台の会

〒771-0114 徳島市川内町宮

島本浦184

Tel. 088-665-2202 佐藤憲治 http://joruri.info/jurobe/

第13回拝宮農村舞台公演「杜のレストラン」

徳島県内で最も多くの農村舞台が残る那賀町の「拝宮農村舞台」は2004年に半世紀ぶりに人形浄瑠璃の公演を復活し、以来毎年公演を続けている。今回は、食事をしながら人て代ショは、間狂言を鑑賞して、町の特産品を使った明して、町の特産品を使った乗して、町の特産品を使った乗り、入下ランを開き、ゑび、地元りの公演や音楽とのコラボレーションも楽しめる農村舞台を開催する。

[日程] 5月29日 [会場] 那賀町拝宮·白人神社



第12回拝宮農村舞台公演(2015年)

●高知県高知市

高知県立美術館

〒781-8123 高知市高須353-2 Tel. 088-866-8000 朝倉芽生 http://kochi-bunkazaidan.or.jp/ ~museum/

2

高知パフォーミング・アーツ・ フェスティバル2016 日英豪国 際共同製作 世界初演

「ZERO POINT/ゼロ・ポイント

2011年度にスタートしたアーティスト・イン・レジデンス事業で、13年度に招聘したイギリスの振付家ダレン・ジョンストンは、お偏路巡りをはじめとした高知でのリサーチや制作を糧に、帰国後もブラッシュアップを継続。短期的な成果を求め

にくいとされるレジデンス事業 の約3年越しの成果といえる作 品を世界初公演として上演す る。

[日程] 6月25日、26日 [会場] 高知県立美術館ホール

九州・沖縄

●福岡県直方市

直方文化青少年協会 〒822-0017 直方市殿町10-35 Tel. 0949-22-0038 中込潤 http://yumenity.jp/tanio/

石炭の時代展

筑豊の石炭産業に関する戦前から現代にかけての視覚資料や絵画作品の展覧会。直方谷尾美術館と直方市石炭記念館の合同企画。炭鉱労働者の1日を描いた「炭鉱絵巻」(直方市石炭記念館収蔵、通常は一部公開)の全体公開をはじめ、世界記憶遺産登録で話題となった山本作兵衛の未登録の炭鉱記録画以外にも数多く残るさまざまな資料や作品を展示。

[日程]4月5日~6月19日 [会場]直方谷尾美術館、直方 市石炭記念館

●長崎県佐世保市

アルカスSASEBO 〒857-0863 佐世保市三浦町 2-3

Tel. 0956-42-1111 田上· 島本 http://www.arkas.or.jp/

アルカス演劇さーくる×劇団楽 園天国『カンカン山んにき』

公募の市民と地元劇団が一緒 に演劇づくりを行う「アルカス 演劇さーくる」。今回の公演で



エンゲキたいけん「秋のワクワク☆ワーク ショップ | (2015年10月)

は、佐世保で活動を続けている劇団楽園天国の代表作であり、戦時下の佐世保の人々を描いた『カンカン山んにき』を、新たに壕を掘る子どもたちのシーンを追加するなど、より迫力のある舞台にリニューアルして上演する。

[日程] 6月24日~26日 [会場] アルカスSASEBO

●鹿児島県湧水町

鹿児島県霧島アートの森 〒899-6201 姶良郡湧水町 木場6340-220

Tel. 0995-74-5945 植松篤 http://open-air-museum.org/

第1回霧島ロビープロジェクト ジョイス・ホー in霧島アートの森

地理的条件などを活かし、鹿児島県をアジアに開かれた日本の南の"ゲートウェイ"としてさらに活性化させるため、またアートを通じた国際交流を図るため、今年度からアジアの作家を招へいする事業を開始。アーティストは鹿児島で滞在制作し、地域との出会いから生み出された作品を発表する。第1回は、一つで2週間の公開制作が実施される。

[日程] 公開制作:5月10日~22 日/展覧会:5月24日~7月3日 [会場] 鹿児島県霧島アートの森

夏休み子ども企画/フェスティバル情報 求む!

7月号(6月25日発行予定)では 恒例の「夏休み子ども企画/ フェスティバル特集」を予定 しています。下記までどしど し情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4066 Fax. 03-5573-4060 letter@jafra.or.jp 締め切り:6月上旬

▼一今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●長野県飯山市

飯山市文化交流館「なちゅら」

〒389-2253 飯山市大字飯山 1370-1

Tel. 0269-67-0311 http://iiyama-natura.jp/

◎2016年1月25日オープン



老朽化のため閉館した市民会 館に代わる新たな芸術・文化振 興、交流、賑わいの拠点施設と して、また北陸新幹線飯山駅 開業を契機として魅力あるまち づくりの創出を目指し、駅近辺 に新設。県産材のカラマツや檜 がふんだんに使用され、また小 ホールの内装には地元の「内山 和紙 | (経済産業大臣指定の伝 統的工芸品)が使用されるなど、 飯山市の特色を活かした建築 物となっている。催事以外にも 利用でき、多くの人々がいつで も気軽に集まれる活動の場とし て、「ナカミチ」「庭」などの開か れた空間が多いことが特徴。

館内外を対象とした芸術文化の 普及啓発、地域間交流、商業・ 観光・福祉・教育等の地域振興 に関わる「自主事業」を同館が 中心となって企画し、近隣施設 や団体等のネットワークの構築 も目指す。

[オープニング事業][由紀さおり・安田祥子 童謡コンサート]ほか [施設 概要] 大ホール(500席)、小ホール(171席)、多目的ルーム(180m²)、ナカミチ(648m²)、音楽スタジオほか

[設置者]飯山市 [管理·運営者]飯山市 [設計·管理] 隈研吾建築都市 設計事務所·仲條一級建築士事 務所設計監理共同企業体

●広島県東広島市

東広島芸術文化ホールくらら

〒739-0015 東広島市西条栄 町7-19

Tel. 082-426-5900 http://kurara-hall.jp/

◎2016年4月1日オープン



"ひと・まち・文化をむすび 芸術を育む 感動と共感の舞台"という基本理念の下、隣接する新庁舎や西条中央公園、JR西条駅、酒蔵通り、西条駅前商店街など中心市街地一帯のまちづくりの中核施設としてオープン。西等駅から徒歩4分と広島県内では最もJR駅に近いホール。正面も関を入ると自然光が差し込い広場」が広がり、2階の内壁は特注タイルが張られ、西条の赤瓦をイメージさせる。カフェでは地元の食材を使った料理が堪能できる。

市民に愛される楽団、東広島を 代表する創造団体を目指し、小 学生から高校生の団員で構成さ れる専属オーケストラ「東広島市 くららジュニアオーケストラ」が 開館1年前に発足。4月に第1回 定期演奏会を実施した。

[オープニング事業] 「小林研一郎指揮 日本フィルハーモニー交響楽団公演 |ほか

[施設概要]大ホール(1,206席)、 小ホール(245~305席)、サロンホール(196㎡)、市民ギャラリー(119㎡)、会議室4(32~45㎡)、録音 スタジオ、研修室、和室24室ほか [設置者] 東広島市

[管理・運営者](株) JTBコミュニケーションデザイン、NHKアート、日本管財 [設計者] (有) 香山壽夫建築研 究所

●福岡県久留米市

久留米シティプラザ

〒830-0031 久留米市六ツ門町8-1

Tel. 0942-36-3000 http://kurumecityplaza.jp/

◎2016年4月27日オープン



老朽化した市民会館の建替え施設として建設され、新た交流の建替えが広域をどれ、新た交流、商業など広葉などの求心力を象徴するランド層の水心力を象徴するランド層である情報としてオープン。4階をもりである情と優れた音響性能をもりはかったカトラピットや仮ををもりに利用が可能。など多目的に利用が可能。など多目的に利用が可能。などのでは必必が感じられる構造となっている。

今後は優れた芸術文化の発信 のみならず、市民と一体化した 事業展開を目指す。今年度は久 留米シティプラザの主催事業と 市民から公募した企画をオープ ニング事業として位置付け、1年 を通して実施していく。

[オープニング事業] ミュージカル 『ミス・サイゴン』、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団公演ほか [施設概要] ザ・グランドホール (1,514席)、久留米座(399席)、Cボックス(144席)、会議室(530㎡)、展示室(430㎡)ほか

[設置者] 久留米市

[管理·運営者]久留米市 [設計者]香山·DEN·國武·北

島・ナカヤマ特定設計業務共同 企業体

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄で掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

情報担当 宇野・小川 Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066 letter@jafra.or.jp

▼--今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて レポートします

石川県小松市

第18回

全国子供歌舞伎 フェスティバルin 小松





上:「勧進帳」の舞台/下:出演した子供たち

●第18回全国子供歌舞伎フェスティバル in小松

[会期] 2016年5月4日、5日 [会場] 石川県こまつ芸術劇場うらら

[主催]石川県小松市、全国子供歌舞伎 フェスティバルin小松実行委員会、小松 商工会議所

[出演] 新城 山·臼子歌舞伎保存会(愛知県新城市)、小原歌舞伎保存会(愛知県豊田市)、石川県小松市子供歌舞伎「勧進帳」実行委員会

- *1 5月中旬に行われる莵橋神社と本折日 吉神社の祭礼。江戸時代、加賀絹の生産・ 販売で財を成した町人が長浜に倣って豪華 攻曳山を建造し、曳山子供歌舞伎が始まっ た。最盛期には18基あったと言われるが、現 在は8町8基(毎年2町が上演)。曳山子供歌 舞伎は小松市、福島県南会津町、埼玉県小 鹿野町、福井県美浜町、滋賀県長浜市、米原 市・岐阜県亜井町、揖斐川町、富山県砺波 市が定期的に行う。
- *2 現在の小松市安宅住吉神社の海側の 松林の中に関所跡の碑がある。安宅の関を 含め、歌舞伎関連の文化が「平成の世の歴 史物語が息づく歌舞伎のまち・小松」として 2015年度に石川県が制定した「いしかわ歴 史遺産「に認定された。
- *3 市内全中学生を対象にした事業。1986年にスタート。市立10校が持ち回りで勧進帳を上演し、他校の生徒に見せる。役者、長唄、囃子、大道具、化粧、着付け、プログラムなど舞台に関わる一切を中学生が担当し、秋に発表する。

5月4日、5日、18回目を迎えた「全国子供歌舞伎フェスティバルin小松」が開催され、石川県小松市のこまつ芸術劇場うららは拍手と歓声に沸いた。1999年にスタートしたこの催しは、各地の子供歌舞伎の継承団体を招くとともに、稽古を重ねた市内の子供たちが恒例の『歌舞伎十八番の内 勧進帳』を披露するというものだ。

4日に取材に訪れると、子供たちによる見事な口上に続き、山・臼子歌舞伎保存会が『番町皿屋敷 青山家座敷の場』、小原歌舞伎保存会が『稚児揃蘇我の敷皮 由比ヶ浜』を上演。そして締め括りとなる勧進帳の緞帳が上がると、舞台一杯の松羽目を背に、長唄・三味線・囃子方がズラリと並んでいた。驚くことにそのほとんどが子供たちで、小学5年から高校3年の23人が、大人7人と共に芝居を盛り立てた。笠を目深に被りうずくまる義経も、渡り合う富樫と弁慶も堂々たる演技で、弁慶は飛び六方で花道を引っ込み、見事に75分を演じ切った。

子供が役者を務める歌舞伎は各地にあるが、祭礼時に市中を引き回す曳山を舞台に演じるのは数カ所だけだ。小松市には「お旅まつり」(*1)で上演する曳山子供歌舞伎が代々継承され、その誕生から今年で250年目を迎えた。

歌舞伎によるまちづくりを所管する文化創造課課長(小松市経済観光部長兼務)望月精司さんは、「98年に市では"小松が全国に発信すべきまちおこしのテーマ"について市民アンケートを実施しました。その結果が、1位のお旅まつりと曳山子供歌舞伎、2位の安宅の関(*2)と『勧進帳』でした。それで市民みんなが認める小松の魅力である子供歌舞伎と勧進帳をコラボした企画で地域おこしをしようと、"歌舞伎のまち"の推進が始まりました」と振り返る。

曳山子供歌舞伎は、曳山をもつ8町の小学4~6年生の女児しか基本的に演じられないため、フェスティバルでは市内の小学4~6年の男女に門戸を開いた。役者11人に口上役2人を入れ、13人をオーディションで選ぶ。今年の役者は昨年12月から週2日の全員稽古、三役はほかに週に2日、指導者の寺島浩さんから稽古を受けた。

18年間、長唄囃子方指導を行い(今回は小鼓方で出演)、昨年から演技指導も担当している寺島さんは中学校の元国語教諭で能楽の愛好家。86年から続いている市立中学10校が持ち回りで勧進帳を上演する「中学校古典教室」(*3)の第1回を市立南部中学校時代に指導して以来、長年子供歌舞伎に関わってきた。

「87年に義経主従が安宅の関を通過した800年を記念して『勧進帳小松800年祭』が行われるのを機に中学校古典教室がスタートしました。800年祭では十二代目市川團十郎さんが弁慶を演じた勧進帳が上演され、それが大きな弾みになりました」と寺島さん。以来、團十郎は何度も小松を訪れて子供たちを直接指導し、フェスティバルの顧問も務めた。

今年の三役、増子絢香さん(弁慶)、依田晴奈さん(富樫)、杉本陽香さん(義経)は4、5年生から勧進帳に出演した仲良しだ。「台詞を覚えるのが大変だった」「長袴なので難しい」「動かずにじっとしているのが大変」と言いながら、「歌舞伎をやるのが楽しいので、来年からは後見として舞台のお手伝いをしたい」と声を揃える。

子供たちの成長に対し、課題になったのが大人になっても歌舞伎が続けられる環境づくりだ。望月さんは、「市はこの5年間、予算も人力も投入してオール小松で歌舞伎を支え、子供を育てるシステムづくりを目指してきた」と言う。

2010年から「こまつ歌舞伎未来塾」(歌舞伎、 能楽、邦楽、義太夫の4教室)を開講し、これま でに延べ300人が受講。13年に稽古場にもな る体験型展示施設「こまつ曳山交流館みよっ さ」が開館。15年には市川宗家に依頼し、大人 の歌舞伎講座「小松市民歌舞伎」を立ち上げ、 市川ぼたんと市川新蔵を講師に迎える体制も 出来た。また、同年に稽古代などを支援する「こ まつ伝統芸能人材育成奨励金制度」を創設し、 11年に設立した「こまつ曳山&歌舞伎ッズ倶楽 部」(資金や裏方サポート)とともに継承者を育 てる仕組みも整った。とはいえ、伝統芸能指導 者の後継者育成には10年、20年かかる。まち ぐるみで歌舞伎に向き合う小松の展開に期待 が膨らむ。 (ジャーナリスト・奈良部和美)